

第 66 回 生体制御学セミナー

グレリンの比較内分泌学

～グレリンというホルモンを知っていますか？～

海谷 啓之 先生

国立循環器病研究センター研究所 生化学部

日時: 9月9日(金) 15:00～16:00

場所: 理学部 2号館 2階 9番教室

講演要旨

グレリン (Ghrelin) は、人為的に合成された成長ホルモン分泌促進因子が結合する受容体が生体内に存在することが示され、その受容体に結合する「内在性リガンド」として、1999年にラットの胃から発見されたペプチドホルモンです。当初、成長ホルモンの分泌促進が主たる作用と考えられていましたが、摂食の調節、特に亢進作用に働くことが明らかにされ、現在では、エネルギー代謝、循環器系、免疫系、細胞増殖調節などにも関わる多機能なホルモンであることがわかっています。グレリンの発見から17年が経ちますが、講演者は、軟骨魚類、真骨類、両生類、爬虫類、鳥類など哺乳類以外の脊椎動物全般にもグレリンが広く存在することを示し、これらの動物におけるグレリンの構造や機能について比較内分泌学的研究を行ってきました。本セミナーでは、グレリンとは哺乳類のみならず、脊椎動物にとってどのようなホルモンなのかを紹介したいと思います。

問い合わせ先: 坂田一郎(内)4983、isakata@mail.saitama-u.ac.jp

注: 本セミナーは集中講義(「生体適応学特別講義」)の中で行われます。)